



貞松院の倉で見つかった寺宝を調査する中島係長(左)と三嶋さん(右)

# 貞松院の寺宝を調査

## 4月6日に2年ぶり展示会

諏訪市諏訪の貞松院で23日、同院の倉で見つかった約30点の寺宝の調査が行われた。今回の調査結果を参考に、4月6日に同院で開く寺宝展に展示する作品を選出する。市教育委員会生涯学習課の中島透係長と市博物館の学芸員三嶋祥子さんが、作品の由来や解説に取り組んだ。

絵画や掛け軸、彫金などさまざまな種類の作品を調査した。作者不明の「当麻曼荼羅」や「千手観音菩薩像」、作者履歴不明の「尊来迎金色画像」にも考察を深め、高島藩初代藩主の諏訪頼水が家来に書いた手紙の解説も行った。中島係長は「御条目」と書かれた黒い箱に収められていた書物

を読み「幕府からの定め書きではないか」と推測していた。展示会は、2023年以来2年ぶりに開く。今まで非公開としていた書画を中心に、今回調査した寺宝の中から選んで

計約30点並べる予定という。山田雄道住職(70)は「地元文化財を見直す機会にしてほしい」とし「新しく見つかった文化財や諏訪出身の人の作品も多く展示するので、多

くの人に来てほしい」と来場を呼び掛けている。入場無料。午前10時〜午後4時。問い合わせは同院(電話0266・52・1970)へ。(石角拓也)